

夏の厳しい暑さも終わりに近づき、日に日に秋の訪れを感じられるようになりました。幼稚園生活最後の運動会をととても楽しみにしている子ども達。多くの事に挑戦し、思い出に残る運動会にしたいと思います。

お知らせ

- ・まだまだ汗ばむ日がありますので、水筒と着替え(気になる方のみ)をお持ち下さい。
- ・10月20日(水)は遠足です。詳細は、後日配布の、遠足のお知らせをご覧ください。
- ・運動会種目中の各学年かけっこにつきまして、年長組はクラス対抗リレーとなります。アンカーの2つ前に各担任が走ります。欠席等で各クラス人数が合わない場合は、2回走るお友達がいまます。ご了承下さい。

今月の目標

集団の中でできまりを守り、皆で一つのことをやり遂げる楽しさを味わう。

10月の予定

- ・園生活最後の運動会があります。お家の方に見て頂くのをとても楽しみにしていますので、本番では温かい応援を宜しくお願い致します。
- ・登龍館国語力才能開発研究会主催の「幼児からの音読コンクール」に毎日の朝の会で取り組んでいる漢字絵本や名文を音読している様子を撮影し、応募します。撮影について、何か支障のある方がいらっしゃいましたら担任までお申し出下さい。



- ④①・海原清き出でて見れば久方の
雲居に粉ふ沖つ白波
法性寺入道前関白太政大臣
前中納言匡房
- ④②・高砂の尾上の櫻咲きにけり
外山の霞立たずもあらなむ
大納言経信
- ③⑨・夕されば門田の稲景訪れて
産の丸屋に秋風ぞ吹く
良暹法師
- ③⑧・寂しさに宿を立ち出でて眺むれば
いづこも同じ秋の夕暮
能因法師
- ③⑦・嵐吹く三室の山の紅葉景は
龍田の川の錦なりけり
前大僧正行猛
- ③⑥・諸共に哀れと思へ山櫻
花より外に知る人も無し
十月の百人一首



ソーラン節ってなーに？



「ヤーレンソーランソーラン」「ドッコイショ〜ドッコイショ！」という迫力のある掛け声で力強く踊るソーラン節。

ソーラン節は北海道に伝わる民謡で、ニシン漁の際に歌われていた作業歌がその元となります。発祥は日本海沿岸部、積丹半島から余市郡にかけての地域だそうです。

「ヤーレンソーランソーラン」「ドッコイショ〜ドッコイショ！」というフレーズの意味は、2つの説があります。

1つ目は「掛け声説」

沖の船から枠網の中へ追い込んだ鯨を、大きなタモ網で汲み上げるとい
う辛い作業を乗り切るために「ヤーレンソーラ！」と漁師たちを応援し、
「どっこいしょ！」「ハイハイ」と答える。皆で同じ掛け声を共有
することで、一体感を高めたそうです。

2つ目は「ヘブライ語由来説」

歌詞のヤーレン、チョイ、ヤサエ・エンヤン、サー、ノ・ドッコイショ
をヘブライ語に直すと「まっすぐ目指して（約束の地へ）、嵐が来ても
神の御加護によって進んでいけますように」という古代ユダヤ人たちの
賛歌的な意味合いになるそうです。

運動会で行う時も年長組みんなで一体感が出せると良いですね！

